⟨人間に生まれ変わるため人生２周目を生き直していた 近藤麻美⟩

⟨中学時代の教師を 冤罪から救ったり１周目ではダメ人間だった 元カレが２周目で大成功を 収めていることを知ったり⟩

⟨そんなある日…⟩

(麻美) 油断した～！

⟨今度こそ 人間に生まれ変わると 思ったのですが…⟩

(受付係) ニジョウサバですね｡

(麻美) もう１回やり直すっていうのは できない…？ >> できますよ｡

(麻美) え？

⟨こうして人生３周目が スタートしました⟩

(久美子) 生まれてきてくれて ありがとね｡

(麻美) 結構 頑張って徳積んだんだけどさ 次 インド洋のサバでさ｡

(夏希) えっ サバいいじゃん 私 サバ 好きだよ｡

(美穂) うん 私も好き｡

(麻美) それは食材としてでしょ？

(美穂) うん｡

(夏希) 前 何だっけ？

(麻美) オオアリクイ｡

(美穂) あ～ オオアリクイはキツいね｡

(夏希) オオアリクイより サバのほうがよくない？

(美穂) うん｡

(麻美) 若干ね｡

(美穂) なってみたら 意外と楽しそう｡

(夏希) 確かに｡

(美穂) じゃあさ もしさサバに生まれ変わるとしたら 塩焼きと味噌煮 どっちがいい？

(夏希) あ～ 悩ましいね！

(麻美) 食べられる前提なの？

(夏希) 私 塩焼きかなぁ｡

(美穂) え～ 私も！ あーちんは？

(麻美) あぁ… 締めサバ｡

(美穂) あっ 締めサバもおいしい！

(夏希) 締めサバね！

(麻美) ていうかさ 煮たり焼いたり されるのは嫌じゃない？

(夏希) でも おかずとしてだったら 塩焼きのほうがよくない？

(美穂) うんうん…｡

(麻美) おかずとして？

(美穂) 締めサバはさ 日本酒飲みながら 食べたいじゃん｡

(夏希) 食べたい｡

(麻美)｢食べたい｣って 言っちゃってるじゃん｡

(夏希:美穂) あぁ｡

(夏希) 何か すいません｡

(三田) いいよ｡

近藤にも助けてもらったし これでチャラな｡

(麻美) ありがとうございます あの 帰りは私たちが押すんで｡

(三田) 帰り？ 今 行きなの？

(美穂) あれ何？

(夏希) え？

(美穂) あれあれ｡

(サイレン)

(麻美) ヤッバい 警察来た！

(夏希) マジで？ どうしよう｡ >> 行こう｡

♪～ “粉雪”

(夏希) これって捕まったらどうなんの？

♪～>> “粉雪”

(美穂) 締めサバにされるんじゃない？ >> 締めサバ!?

♪～ “粉雪”

(夏希) 絶対ヤダ｡

(麻美) ヤバい ヤバい…！

♪～>> “粉雪” 行こう！

(麻美) 急いで 急いで！

♪～ 粉雪 ねえ

♪～ 心まで白く

♪～ 染められたなら

♪～ 二人の

♪～ 孤独を分け合う事が >> 出来たのかい

♪～ 粉雪 ねえ

♪～ 心まで白く

♪～ 染められたなら

♪～ 二人の

♪～ 孤独を包んで

♪～ 空にかえすから

(三田) えっ 何すか？ え？ え？

え～！ これ連帯責任だろ？

おい ちょっとこれ！

うわ～！

(目覚まし時計のアラーム)

(麻美) ⟨３周目の人生も もう14年目⟩

📺 時刻は７時15分になります｡

(寛) おぉ… おぉ きた｡

(寛) おぉ… おぉ！ おぉ～｡

(久美子) それ効くの？

(寛) 効く 効く すっごい効いてる｡

(麻美) ⟨３回目の父親への嫌悪感も 何とか抑え込めている⟩

あっ “ＴＲＩＣＫ”見た？

(美穂) 見た｡

(夏希) 待って 私 見てないから言わないで｡

(麻美) なっち 見てないの？

(夏希) 今日 帰って見るから｡

(麻美) そうなの… 面白かったとかは 言ってもいいよね？

(夏希) いやぁ できれば言わないで｡

(麻美) それもダメなの？

(美穂) 面白かったかどうかはよくない？

(夏希) いや だって仮に面白かったって聞いたら 変に期待値上がって純粋に楽しめないし 面白くなかったって聞いたら見る気 失せるじゃん？

(美穂) いや そうだけどさ｡

(麻美) じゃあさ どこまでなら言っていい？

(夏希) あっ 放送したかどうかなら｡

(麻美) したに決まってんじゃん｡

(美穂) したから 話そうとしてんだからさ｡

(夏希) でも あとは 全部ネタバレになっちゃうもん｡

(麻美) 分かった “ＴＲＩＣＫ”の話は あしたにしよう｡

(美穂) そうだね なっちが見てから ３人で話そう｡

(夏希) うん ごめんね｡

仲間由紀恵の前のドラマの話なら 大丈夫だよ｡

(麻美) 前の？ “ごくせん”？

(夏希) そう “ごくせん”なら大丈夫｡

(美穂)“ごくせん”かぁ｡

(夏希)“ごくせん”面白かったよね｡

(麻美) 確かに面白かった｡

(美穂) 仲間由紀恵って コメディー上手だよね｡

(麻美) 上手｡

“ＴＲＩＣＫ”もさ やっぱ 仲間由紀恵の面白さが…｡

(夏希) あ～ 待って “ＴＲＩＣＫ” 持ち込まないで｡

(麻美) でも全体の話だよ？

(夏希) 全体だけど昨日の放送も含まれてるでしょ？

(麻美) まぁ｡

(夏希) だったら 言わないでほしい｡

(美穂) え～ じゃあ 何の話する？

(麻美)“ＴＲＩＣＫ”と全く関係ない話 だよね？

(夏希) そうだね｡

(麻美)“ＴＲＩＣＫ”と全く関係ない…？

朝青龍とか？

(美穂) あ～｡

関係ないね｡

(夏希) うん 朝青龍なら平気｡

(麻美) 朝青龍… 強いね｡ ⟨このやりとりも 実は３回目⟩

(美穂) 強いね｡

(麻美 はなをすする音)

(美穂) あーちん また風邪ひいたの？

(夏希) ひき過ぎじゃない？

(麻美) ⟨中学時代といえば避けては通れないのが この場面⟩

⟨３周目も変わらずウザさを まき散らす社会科の教師⟩

⟨三田哲夫 通称｢ミタコング｣⟩

黙ってちゃ分かんないだろ！

お前たちのせいで みんなの大事な 授業時間が奪われてんだぞ！

分かってんのか？

(麻美) ⟨この場面１周目では黙って見てただけ⟩

⟨２周目では 歯向かってはみたけど屁理屈で ねじ伏せられた⟩

(三田) もう一回 言うぞ みんなに…｡

(麻美) 先生｡

何だ？

(麻美) ２人は授業に 関係ないことをしましたけど授業を中断して叱っているのは 先生の判断なのでそのことで２人を責めるのは 違うと思います｡

⟨今回こそ⟩

何でだよ｡

２人が手紙を渡さなければ先生も授業を中断することは なかっただろう？

(麻美) だったら 後で叱ればいいじゃないですか｡

何で わざわざ授業を中断して みんなの前で叱るんですか？

連帯責任だからだよ｡

(麻美) 連帯責任…｡ >> いいか？

社会に出たら 誰かのミスや過ちで みんなが迷惑するケースがたくさんあるんだよ それを 学ぶための連帯責任なんだよ｡

(麻美) いや 誰かのミスとか過ちで 迷惑がかかるって例えば 教室に牛乳をこぼしたら みんなが臭い思いをするとか窓ガラスを割ったら みんなが寒い思いをするとかそういうことですよね？ それって 連帯責任とは違いますよね？

>> どう違うんだよ｡

(麻美) 今回の件って私たちに直接 迷惑が かかるわけじゃないことを先生が かかるように 仕向けてるだけじゃないですか｡

こんな状況って 社会では あまりないと思います｡

あるんだよ お前らが知らないだけで｡

(麻美) いや 普通はないと思います｡

仮にあったとしても これからの時代そういう昭和的な体質は 改善されていくと思います｡

>> 何を生意気な｡

(麻美) しかも それ以前に先生には 教育を受けさせる義務があって私たちには 教育を受ける権利が ありますよね？

それを先生が意図的に 妨害するのはよくないと思います｡

⟨はい どうだ？⟩

⟨ぐうの音も出ないだろ？⟩

まぁ いい｡

あとは個別に話そう｡

終わったら３人とも職員室に来い｡

(麻美) え？

(三田) はい 続けま～す！

(麻美) ⟨あぁ… やめときゃよかった～⟩

⟨あっ…⟩

⟨３周かけて学んだ⟩

⟨黙ってるのが一番⟩

⟨ちなみに 学力のほうは ３周目で気が緩んだのか２周目よりも 順位は やや下がってしまった⟩

(真里) 生徒会より連絡事項があります｡

(麻美) ⟨宇野真里ちゃんにも 突き放された⟩

⟨そんな感じで 大した進歩のない 中学時代を終えた私は…⟩

(麻美) ⟨３周目も同じ女子校に入学⟩

(ｲﾔﾎﾝ)♪～ “ハナミズキ”

キ… キスはしたんですか？

(麻美) ⟨それなりに 楽しい高校生活を送り…⟩

(まどか) はい｡

(生徒たち) キャ～！

(麻美) では お時間となりましたので 終了とさせていただきます｡

ありがとうございました｡

⟨同じ大学に入学⟩

⟨といっても 今回は薬学部ではなく１周目と同じ文学部を選択⟩

(香織) “ハリー･ポッター” 読んだ？

(麻美) ⟨ただ 仲良くする友達は １周目とは微妙に違った⟩

⟨というのも あのグループには…⟩

(田邊) あれ知ってる？ iPhone｡

(麻美) ⟨元カレがいるから⟩

⟨といっても 向こうに 付き合った記憶はない⟩

⟨そんなある日⟩ 帰り お茶でもしてく？

(香織) そうだね あっ その前に 三省堂 寄っていい？

(麻美) いいよ 何買うの？ >> 参考書｡

ねぇ この後さ みんなで カラオケ行くんだけど２人 よかったら来ない？ >> 行きた～い！

ホント？ 麻美ちゃんは？

(麻美) あ… うん｡

じゃあ｡ >> おう｡

行くって｡ ＼おぉ マジで～／

(麻美) ⟨たまたま 誘っただけなのだろうけど何だか勝手に ドギマギしてしまった⟩

(田邊) ♪～ ２人 寄り添って歩いて

♪～ 永久の愛を形にして

♪～ いつまでも君の横で

♪～ 笑っていたくて

(麻美) ⟨あぁ…⟩

⟨そういえば これよく歌ってたな⟩

⟨懐かしい⟩ >> ♪～ せめて言わせて

♪～ ｢幸せです｣と

♪～ Baby boy わたしは ここにいるよ

(麻美) ⟨このメンバーとも よく一緒に遊んでいた⟩

ん｡ >> おっ｡

(麻美)♪～ 曲がりくねった

♪～ 道の先に >> ♪～ 道の先に

(麻美)♪～ …いる 幾つもの小さな光

⟨ちなみに 来年の夏休み みんなでﾊﾞｰﾍﾞｷｭｰに行った時この子は この子に告白して フラれる⟩

⟨なぜなら この子は この子のことが好きだから⟩

⟨ただ この子はバイト先の先輩と 付き合っているので２人が 付き合うことはないけれど１回だけ体の関係を持つ⟩

⟨もちろん 今の段階では 誰も知る由もない⟩

(麻美) ⟨帰りが 同じ方向だということで彼に送ってもらうことになった⟩

⟨久しぶりに乗る彼の車⟩

⟨正確には 彼の親の車⟩

〔いいの買えたね～〕

(麻美) ⟨あの時 ここで過ごした時間や交わした言葉⟩

〔これ何味だ？ 黒飴だ！〕

(麻美) ⟨そして…⟩

〔何か ごめんね〕

(麻美) ⟨貸した５万円も全て今はもう 過去ですらない⟩

♪～

(麻美) ありがとう｡ >> うん｡

また今度 みんなで遊び行こうよ｡

(麻美) そうだね また誘って｡

うん 誘う誘う あっ そうだ｡

連絡先 聞いていい？

(麻美) うん｡

📱(操作音)

(麻美) はい｡

あれ どこ？ >> えっとね 俺 これ これ…｡

はい｡

(麻美) いけたかな？

来た ＯＫ｡

はい 登録しました｡

(麻美) はい～｡

ありがとね｡ >> うん｡

じゃあ また大学で｡

(麻美) うん｡

じゃあね｡ >> じゃあね｡

(麻美) ⟨まぁ クラスメートだし 連絡先くらいなら⟩

⟨…と思っていたら⟩

⟨その後 彼らのグループとは 頻繁に遊ぶようになり…⟩

玉ねぎ食べる？

(麻美) うん｡

(田邊) うん フフフ…｡

(麻美) ⟨そして…⟩

気付いてるかもしんないけど…｡

好きです 付き合ってください｡

(麻美) ⟨私にとっては ２度目の告白⟩

⟨彼とは二度と 付き合わないと思っていたけど⟩

(麻美) ⟨何だかんだで優しいし…⟩

(麻美) ⟨優しいので⟩

はい｡

(麻美) ⟨もう一度 付き合ってみることにした⟩

(クラクション) あっ｡

(麻美) ⟨ちなみに 62年ぶりの元サヤ⟩

⟨２度目ということもあって 新鮮味はないけれど…⟩

♪～ 右ポテト 左ポテト 交互に食べる

(麻美) ⟨居心地は良かった⟩

>> やってみて｡

(麻美) ちょ… やらないよ｡

⟨ただ 今回は 絶対に堕落させないように⟩

まー君さ 一つだけ 約束してほしいんだけど｡ >> 何？

(麻美) パチンコだけは行かないでね｡

パチンコ？ 何で？

(麻美) 私さ ギャンブルする人 無理なんだよね｡

>> あぁ そうなんだ｡

(麻美) うん｡

ん？ 今って行ってる？ パチンコ｡

ん～ まぁ 数えるぐらいだけど｡

(麻美) うん じゃあ もう行かないでね｡

>> 分かった｡

(麻美) 約束ね｡

うん… はい｡

パチンコね うん｡

(麻美) ん｡ >> え？

分かったよ はい｡

(麻美) ⟨厳しく監視した⟩

もしもし？

ねぇねぇ 今日 何で学校休んだの？

聞いてる？

いやいや だって それ ズル休みじゃん｡

うん…｡

いや でもさ 親に高い学費 払ってもらってんだからちゃんと通いなよ｡

(麻美) ⟨年商10億のポテンシャルを 持っている彼を私のせいで ダメにしてはいけない⟩

⟨その一心で⟩

(チャイム)

(田邊)＼開いてるよ～／

(麻美) お～い｡

(田邊) ん？

(ﾓﾆﾀ)(ゲームの音)

(麻美) ねぇ～ 何でこんな散らかってんの？

え？ あ いや 後で片付けようと思ってて｡

(麻美) 後で後でって この間 来た時も この状況だったじゃん｡

そうだっけ ごめんごめん｡

(麻美) ⟨私は心を鬼にした⟩

⟨その結果…⟩

ごめん 別れよう｡

(麻美) え？

多分…俺ら 合わないと思うんだよね｡

(麻美) あ～｡

うん｡

(麻美) ⟨前回よりも ショックが大きかったのはきっと…⟩

(麻美) ⟨それだけ本気で 好きだったから⟩

(麻美) ⟨３回目の成人式⟩

(市長) 輝かしい未来を切り開いて…｡

(男) おい！ そうじゃねえだろ ジジイ！

つまんねえ話 してんじゃねえぞ｡

(男) よっ 待ってました～！

ウェ～イ！ ウェ～イ！

(美穂) ああいう人たちって ホントにいるんだね｡

(夏希) ねぇ｡

(麻美) ⟨彼は 今回も取り押さえられ…⟩

(福田)♪～ イケナイ太陽

(麻美) ⟨福ちゃんは 今回もORANGE RANGEを普通の歌唱力で歌い…⟩

実は俺 音楽やろうと思っててさ｡

(麻美) ⟨叶わない夢を語り…⟩

(加藤) 福ちゃん 絶対売れるよ！

(静香) 私も売れると思う｡

ホント？

(麻美) ⟨みんなで無責任に応援し私も絶対に売れない彼の…⟩

売れても うちらのこと忘れないでよ！

⟨背中を押した⟩

⟨そして今回も…⟩

(加藤)♪～ 粉雪 ねえ

(麻美) ⟨加藤は“粉雪”を熱唱⟩

⟨そんな予定通りの 成人式だった⟩

📺 天望デッキに向かっていく ということなんです｡

📺 350ｍの天望デッキへの…｡

(麻美) あっ ヤバ｡

⟨大学卒業後 私はテレビ局に入社⟩

(麻美) ⟨元々 ドラマが好きだったのとたくさんの人を 楽しませることで大量の徳が 見込めそうだったから⟩

(ｲﾔﾎﾝ)♪～ “やさしくなりたい”

(ｲﾔﾎﾝ)♪～ “やさしくなりたい”

(麻美) ⟨そのため 今回は 東京で初めての１人暮らし⟩

(ｲﾔﾎﾝ)♪～ “やさしくなりたい”

(麻美) ⟨テレビ局に勤めて 最初の仕事は“24時間テレビ”のスタッフ⟩

(麻美) ⟨出演者が歌う 巨大なカンペを作ったり…⟩

(ｽﾀｯﾌ) 曲終わりまで２分前です｡

(麻美) ⟨スタンドインをやったりと仕事自体は大変だけど何となく 番組の方向性的には徳が積めそうな気がした⟩

⟨“24時間テレビ”が終わると 私はドラマ班に配属された⟩

⟨私が最初に関わった 連ドラは…⟩

駐車場ですか？ はい｡

⟨“Ｗｏｍａｎ”⟩

⟨私はＡＰとして参加⟩

⟨ＡＰとは ｱｼｽﾀﾝﾄﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰの略⟩

⟨一言でＡＰといっても現場ＡＰ 仕上げＡＰ 局周りＡＰの３種類があって私は現場ＡＰ⟩

臼田さん 到着されました｡

(エレベーターの到着音)

(麻美) はい 承知しました｡

おはようございます｡

(臼田) おはようございます｡

(麻美) 駐車場 分かりました？

(ﾏﾈｼﾞｬｰ) はい 分かりました｡

(麻美) ⟨主に俳優部のケアや現場が円滑に回るようにするのが 私の仕事⟩

ちょっと 今 前のシーンが押しちゃってて｡

あぁ ちょっと 大変なシーンですもんね｡

(助監督) 臼田さん 入られます｡

(臼田) おはようございます｡

(麻美) すいません ごめんなさい 臼田さん 髪セット前なんでここ 撮影なしでお願いします｡

(ﾒｲｷﾝｸﾞ) あ～ 了解｡

(ﾓﾆﾀ) 望海 下りなさい｡

(麻美) ⟨これまで 地方公務員 薬剤師と合計20年以上 社会経験がある私は同期の中でも かなり仕事ができた⟩

(ｽﾀｯﾌ) ありがとうございます｡

(麻美) 何か さっき 満島さんも すごい喜んでました｡

好きみたい｡

(ﾓﾆﾀ) でも いつでも 子供たち預かりますよ｡

(ﾓﾆﾀ) ありがとう｡

(麻美) ⟨前の人生で見ていたドラマを作る側として見るのは 不思議な感覚だった⟩

巻きましたね～｡ >> ねぇ｡

ひかりちゃんのおかげ…｡

(麻美) 満島さんもすごかったですけどお２人の あの…｡ >> いやいや… あっ すいません｡

(エレベーターの到着音)

(麻美) ありがとうございました｡ >> お疲れさまでした｡

失礼します｡

(麻美) 失礼します｡

⟨こんな感じで あっという間に 数か月が過ぎ…⟩

＼お疲れさまでした／

(拍手)

(助監督) 以上をもちまして ドラマ“Woman” 最終話クランクアップです！

(拍手)

お疲れさまでした｡

(麻美) ⟨数か月間 ほとんど休みなく働き肉体的には 今までの仕事の中でも 一番ハードだったけどその分の達成感があった⟩

(拍手)

(麻美) 子供たちのアップはヤバいです｡

⟨臼田さんとも仲良くなれた⟩

ホント寂しくなりますよね｡

(臼田) ねぇ～ 寂しくなるね｡

(麻美) また ご一緒できるように 頑張ります｡

いつか 私 プロデューサーやる時 ぜひ 臼田さん主演で出てください｡ >> え… そんな もちろん もちろん｡

私も そうなるように頑張ります｡

(麻美) 頑張ります｡

いつになるか分かんないですけど｡ >> 待ってるわ｡

ていうか その前に ごはん行こうね｡

(麻美) あっ 行きたいです｡ >> 連絡します｡

(麻美) ありがとうございます｡

(エレベーターの到着音)

(麻美) お疲れさまでした！

(臼田) お疲れさまでした｡

(麻美) ありがとうございました お疲れさまでした｡

お疲れさま～｡

(麻美) ⟨撮影も終わり やっと休みをもらえたので私は数か月ぶりに実家に帰った⟩

>> 麻美 小林 薫さんの隣に 写ってるじゃん｡

(麻美) うん そうだよ｡

すごいな… 会話とかしたの？

(麻美) うん まぁ 仕事の話だけどね｡

麻美 ごはん ちゃんと食べてるの？

(麻美) うん 食べてるよ｡ >> ホント？

ホントにもう コンビニばっかじゃないの？

(麻美) いやいや まぁ たまには自炊もしてるかな｡

>> なら いいけど｡

(遥) いいなぁ １人暮らし｡

何 遥 １人暮らししたいの？

(遥) う～ん｡

ずっとは嫌だけど でも ２～３日くらいならやってみたい｡

(麻美) それ 一人旅じゃん｡ >> じゃなくて こう自分だけの空間でさ ２～３日でいいからごはんとかも 全部 自分でやってみたい｡

(麻美) ソロキャンプじゃん｡ >> ソロキャンプ？

(麻美) あ そっか｡

１人でキャンプすること｡

(久美子:遥) ふ～ん｡

いいね｡

(麻美) いいんだ？

麻美 番組のグッズとかは もらってないの？

(麻美) 小っちゃいほうの袋に入ってるよ｡

(寛) え～ どれどれ｡

(夏希) あーちん痩せた？

(麻美) え？ 体重は変わってないよ｡

(夏希) あ ホント？

(麻美) やつれたのかな？

(美穂) あぁ 忙しそうだったもんね｡

(夏希) あっ そうだ そういえばさこの間 クローゼット整理してたら 出てきたんだけどさ｡

(美穂) うわ！ ヤバっ！

(夏希) ヤバくない？

(美穂) ドラマクラブじゃん｡

(麻美) 超懐かしい｡

(夏希) 覚えてる？

(美穂) 覚えてるよ｡

小松商店でやってたもんね｡

(麻美) やってたね｡

(美穂) 見て見て めっちゃ真面目に採点してる｡

(麻美) ホントだ しかも寸評も ちゃんと書いてるね｡

(夏希) 面白いよね｡

(美穂) ホントだ｡

見てた～ “未満都市”｡

(麻美) ヤバ 懐かしい｡

何かさ 途中から３人ともやたら｢カタルシス｣って言葉を 使ってない？

(美穂) ホントだ これね 確か ｢カタルシス｣って言葉をあーちんが どっかから仕入れてきたんだよ｡

(夏希) あ～ そうだ｡

(美穂) そうだよね｡

それで ３人とも言い出したんだもん｡

(夏希) 言ってたね 意味も分からずね｡

(美穂) ねぇ｡

あ～ 見てたなぁ｡

(麻美) ねぇ みーぽんさ 竹野内 豊のドラマはさ無条件で満点つけてるでしょ？

(美穂) え？ そんなことないでしょ｡

“WITH LOVE”だけじゃない？

(麻美) いやいや さっきもね…｡

(美穂) あった？ 他｡

(麻美) あった あった…｡

ほら｡

(夏希) ホントだ！

(美穂)“ビーチボーイズ”ね！

(麻美) 100点｡

(夏希) そういえば 好きだったもんね みーぽん 竹野内 豊｡

(美穂) 好きだったよね～｡

(麻美) みーぽんだけ 途中から 竹野内クラブになってたよね｡

(美穂) 何 竹野内クラブって｡

(夏希) 見て 竹野内 豊のこと｢カタルシスが整ってる！｣｡

(美穂) ハハハ…！

(麻美) これは完全に 目鼻立ちのことでしょ｡

(美穂) これ全然覚えてないんだけど 恥ずっ！

(麻美)｢観月さん ホントにキレイ かわいい 特にカタルシス｣｡

⟨私は こうやって 撮影が終わるたびに地元に帰り 家族や幼なじみとの 他愛もないやりとりでエネルギーを補給した⟩

(麻美) おはようございます｡ >> おはよう｡

(麻美) ⟨ドラマ班に配属されて１年半⟩

⟨１周目から ずっと好きだった ドラマに関われることになった⟩

おはようございます｡ ⟨“花咲舞が黙ってない”⟩

⟨主演は この春 朝ドラで ヒロインを務めたばかりの杏さん⟩

⟨原作は これまで数々のヒット小説を世に送り出している作家 池井戸 潤先生⟩

⟨さらに プロデューサーは “ごくせん” “働きマン”などをヒットさせている 有名なプロデューサー⟩

⟨何としてもヒットさせなければ いけないということでｽﾀｯﾌ一同 気合が入っている中…⟩

⟨私だけは落ち着いていた⟩

⟨というのも 私はこのドラマがヒットすることを 知っているから⟩

⟨勝ち馬中の勝ち馬に 乗っている状態⟩

⟨そして…⟩

あーちん｡

分かる？

(麻美) ごんちゃん？ >> そうだよ～！

元気？ お久しぶりだね～｡

(麻美) え～？ 何で？

>> 今ね メイクやってんの｡

(麻美) えええ…｡

⟨小学校からの同級生 ごんちゃんと奇跡の再会⟩

(美佐) 専門卒業して すぐ この世界入ったからもう５年になるね｡

(麻美) 今までは何の作品やってたの？

えっとね 最近だとね “35歳の高校生”｡

(麻美) 超見てた｡ >> あっ ホントに？ うれしい｡

あーちんは？

(麻美) 私 この前が“バンドワゴン”｡ >> あっ そうなんだ｡

じゃあさ 結構近いとこで やってたんだね｡

(麻美) 下手したら 擦れ違ってるよね｡ >> 絶対 擦れ違ってる｡

へぇ～｡

(麻美) ⟨久しぶりに会った ごんちゃんは相変わらず明るくて 変わっていなかった⟩

⟨タバコと髪色くらい⟩

⟨他は全く変わっていなかった⟩

⟨あと タトゥーくらい⟩

⟨他は全く変わっていなかった⟩

やっぱ感慨深いよね～｡

(麻美) ⟨クランクインから２か月⟩

⟨撮影は順調に進み 初回の視聴率も好発進でスタッフの士気も より一層 高まっていた⟩

⟨そして このドラマが続編まで やることを知っている私は勝ち馬爆走中⟩

📱(受信音)

📱(受信音)

(麻美) あ｡

📱(受信音)

📱(受信音)

(麻美) ⟨毎年 親の誕生日は 遥のメッセージで思い出す⟩

⟨そういえば ２周目の父の52歳の誕生日つまり 今日⟩

〔この方 触ってないです〕

⟨ミタコングを救った⟩

〔これだと触れないんで〕

⟨すっかり忘れていたけど当然 あの事件は３周目も起こる⟩

⟨ということは 私が行かないとミタコングは 冤罪で捕まってしまう⟩

⟨だけど今 私は 東京で仕事をしていて今日は夜まで撮影⟩

⟨残念ながら地元に戻るのは 物理的に不可能⟩

〔黙ってちゃ分かんないだろ！〕

(麻美) ⟨そもそも嫌いだし⟩

⟨１周目に そうなったということは元々そういう運命だということ⟩

⟨今回は仕方ない⟩

⟨無理なんだから⟩

(麻美) あぁ…｡

〔実は私 あの おととし 結婚しまして今ね 妻のお腹に 赤ちゃんがおりまして〕

(麻美) くぅ～ う～｡

♪～

(麻美) ⟨まぁ 現場が驚異的な 巻き方をすれば間に合うけど…⟩

あぁ…｡

〔連帯責任だよ〕

〔黙ってちゃ分かんないって 言ってんだろ いつも〕

〔妻のお腹に 赤ちゃんがおりまして〕

(麻美) 巻かせるか｡

(麻美) ⟨現場の巻きは 徳と同じで結局は細かい積み重ね⟩

⟨ちょっとしたタイムロスを一つずつ つぶしていくしかない⟩

⟨このシーンは全部で７回戦⟩

⟨｢７回戦｣とは ワンシーンで ７回カメラを回すということ⟩

⟨引き画⟩

⟨杏さんのワンショット⟩

⟨上川さんのワンショット⟩

⟨ツーショット⟩

⟨そして 今は５回戦目のグループショットの スタンバイ中⟩

⟨つまり あと３回戦で このシーンは埋まるので…⟩

ごんちゃん ごめん！ おはようございます｡

あと３回戦で埋まるから15分で上げられる？

>> ＯＫ 急ぎます｡

(麻美) ごめんね ありがとう｡

お願いします｡

⟨こうしておけば スムーズに次のシーンに移れる⟩

⟨ちなみに最後の２回戦は札勘する舞の手元の寄りと伝票を書く手元の寄りでこの撮影には毎回 銀行監修の 寺本さんが立ち会うので…⟩

この回戦 終わったら 伝票と札勘 撮るんで中 行きましょうか｡ >> はい｡

(麻美) ⟨これによって シーンが埋まってから助監督が呼びに来る時間を削減⟩

⟨エキストラが疲れてくると 撮り直しが増える⟩

よかったらどうぞ｡

ありがとうございます｡

(麻美) ⟨常に元気な状態を キープしてもらいミスが出ないようにする⟩

⟨いつもなら ここで雑談したりするが撮影後 すぐにキャストを 送り出しできるように今のうちにできる片付けを やっておく⟩

助かります は～い はい では 失礼しま～す｡

あっ 茂山さん 今日 このまま メシ押しでいきます？

あ～｡

(麻美) ⟨｢メシ押し｣とは 食事休憩を省いてそのまま一気に撮ってしまう 作戦のこと⟩

⟨これによって かなりの巻きが期待できる⟩

どうしたの？

(麻美) このままメシ押しで いけないかなっていうね｡

いや メシ押ししたところで 塚地さん入るの19時だから結局 待ちになっちゃうんだよね｡

(麻美) 大丈夫です｡

今 マネジャーさんに連絡して もうこっち向かってもらってます｡

ホント？ スタンバイ部は？

メイクいつでもいけますよ｡ >> ＯＫ！ そうしよう｡

(麻美) じゃ 各所 伝えますね｡ >> はいよ｡

(麻美) 失礼します｡

今日 メシ押しでいくんで よろしくお願いします｡

そうなの？ 了解｡

あれ？ 塚地さんの入り待ちに なるから意味ないんじゃないの？

(麻美) もう 塚地さん向かって いただいているんで大丈夫です｡

そうなんだ じゃ いけるか｡

(麻美) 今日 スケジュールに ないんですけど 出しがあって｡

なるほど こっちは 巻くに越したことはないからさ｡

(麻美) お願いします すいません｡

⟨｢出しがある｣とは 他の仕事があるため早めに送り出さなきゃいけない キャストがいること⟩

⟨ちなみに今回のは ウソ⟩

⟨巻くために一番大事なのは一人一人の ｢巻きたい｣という気持ち⟩

⟨大変な撮影の時は ｢どうせ巻かない｣という諦めムードが集中力をそぎ 押しがちになる⟩

⟨だから ｢頑張れば巻ける｣ ということを伝えて現場を｢巻く｣ムードにする⟩

チェックＯＫ！

はい チェックＯＫです 続いて カット６ 移ります｡

エキストラさん もういけます｡

レール組んでます｡

明かりできてます｡

(麻美) 強盗役のお２人 入られます お願いします｡

素晴らしい はい じゃあ カメリハいきます！

(麻美) ⟨このムードになると 現場は 一気に巻き始める⟩

はい 承知しました｡

(茂山) はい いきます！

(麻美) ⟨こうして 撮影は順調に巻いていった⟩

⟨このままいけば ミタコング救出が可能になる⟩

⟨しかし ここで予想外の出来事が⟩

(ｽﾀｯﾌ) おかしいな…｡

(ｽﾀｯﾌ) もう少々お待ちください｡

(麻美) ⟨呼び出し番号の 機械がストップ⟩

⟨現場に不穏な空気が流れた⟩

>> どうですか？ >> ちょっと 時間かかりそうですね｡

なるほど…｡

(麻美) ⟨これは押しそうだ⟩

⟨…と誰もが諦めかけた その時⟩

(ｶﾒﾗﾏﾝ) 茂ちゃん これさ 機械 画から切っちゃえばいけるんじゃない？

(茂山) 切れます？

(麻美) ⟨｢画から切る｣とは 画角から外すということ⟩

(茂山) いけそうっすね ちょっと確認します｡

監督｡

機械 画から切っちゃえば いけそうですが どうしましょう？

いいじゃない いこう｡

(茂山) 分かりました｡

切っちゃいましょう｡

(ｶﾒﾗﾏﾝ) はいよ｡

(茂山) お待たせしました 撮影 再開します｡

杏さんと上川さん お呼びして｡

(ｽﾀｯﾌ) はい｡

(麻美) ⟨カメラさんの ファインプレーにより撮影は続行⟩

⟨しかし…⟩ なるほど 東名が｡

⟨塚地さんを乗せた車が高速で 大渋滞に巻き込まれてしまい全く動かないとのこと⟩

どのくらいかかりそうですかね？

あ～ そうですよね｡

⟨絶体絶命のピンチ⟩

＼カット15 いくよ／

(麻美) ⟨しかし 諦めたくはない⟩

う～ん…｡

あっ ちょっと このまま お待ちいただいてもいいですか？

はい すいません｡

宇多川さん 今 塚地さんが東名からの渋滞にはまっちゃったみたい なんですけどどうにか抜けられないですかね？ >> 東名？

(麻美) ⟨宇多川さんは ロケ場所を仕込む 制作部さんで東京の抜け道を 知り尽くしている⟩

えっとね 用賀で降りて 多摩川の土手道 走って来れば30分で着くよ｡

(麻美) おぉ…｡

ありがとうございます すいません｡

もしもし すいません お待たせしました｡

取りあえず 用賀で 降りていただいていいですか｡

⟨本日一番のスーパープレー⟩

⟨別角度で もう一度⟩

用賀で降りて 多摩川の土手道 走って来れば30分で着くよ｡ ⟨イエス！⟩

(麻美) 最高｡

(ｽﾀｯﾌ) もう少々お待ちください｡

(麻美) ⟨そして…⟩

♪～

(麻美) お待たせしました 塚地さん 到着されました｡

(塚地) おはようございます｡

(大きな拍手)

♪～

(麻美) ⟨本来の予定では ２時間後に 現場入りする塚地さんが奇跡の早入りを果たし 現場のボルテージは最高潮⟩

⟨こうして撮影は…⟩

本日 以上です お疲れさまでした｡

(麻美) ⟨驚異的な巻き方でなんと３時間も早く 終えることができた⟩

⟨逆に巻き過ぎて結局 買い物をして 時間をつぶした⟩

(麻美) ⟨問題は ここから⟩

⟨前回は確か 仕事帰りに イオンに寄ったので乗ったのは ９時前後の電車だったはず⟩

⟨ただ ９時前後の電車は３本ありさすがに どの電車かまでは覚えていない⟩

⟨ここで 乗る電車を間違えてしまうとミタコングは冤罪で捕まり 職を失い家族まで不幸になってしまう⟩

⟨絶対に失敗は許されない⟩

あっ｡

⟨そういえば ミタコングは 北熊谷駅から乗ってきた⟩

⟨駅前で 少し前から待ち伏せしよう⟩

(麻美) ⟨早朝からの撮影で ヘトヘトなのにあしたも早いのに⟩

(三田) 〔これ 授業に関係ないよな？〕

〔なぁ 関係ないよな～!?〕

(麻美) ⟨あんなに嫌いだった教師を 助けるためだけに東京から わざわざ…⟩

⟨あ～ 帰りたい⟩

あぁ～ あっ あっ！ ⟨早く帰ってお風呂に入って保湿して寝たい⟩

あーちん？

(麻美) あ～｡

しーちゃん｡

(静香) お久しぶり！

(麻美) お久しぶり～｡

>> え～ 何してんの？ 待ち合わせ？

(麻美) あ うん…｡

しーちゃんは？ >> 私は仕事終わって帰るところ｡

(麻美) そうなんだ｡ >> うん｡

(麻美) ⟨確か まだ福ちゃんとは 別れてないはず⟩

福ちゃん 元気？ >> うん 元気｡

まぁ 音楽のほう さっぱりだけどね｡

(麻美) そうか～ まぁ 厳しい世界だもんね｡

そうだね｡

私はね もう現実見てほしいと 思ってんだけどね｡

(麻美) うん… 生活とかね 大変だもんね｡ >> そう｡

でもさ あんま言うと ケンカになっちゃうからさ｡

(麻美) そっか｡ >> ホントはさ子供とかも欲しいんだけどさ｡

売れて一人前になるまでは つくれないとか言うからさ｡

(麻美) 福ちゃんって 変なとこ真面目だからね｡

⟨駅前で聞くには重めな話だな⟩

でもさ 両親は会うたびに早く孫の顔が見たいとか 言ってくるのよ｡

(麻美) それは つらいねぇ…｡ >> うん｡

(麻美) ⟨重い 重い 重い⟩

⟨重いぞ どうしよう⟩

⟨ミタコング 見逃すわけにはいかないし…⟩

ん～｡

しーちゃんさ その話 今度 ゆっくり聞かせて｡

>> あっ ごめん 人 待ってんだよね？

(麻美) いや 何かさあの ねぇ 立ち話も何だから今度 ちゃんと 相談乗りたいなと思って｡

ありがとう じゃ また今度 連絡するね｡

(麻美) うん 分かった じゃあね｡ >> じゃあね またね｡

(麻美) お疲れ｡

⟨相談に乗るとは言ったものの未来を 変えるわけにはいかないので何て言えばいいのか迷うなぁ⟩

⟨あっ！⟩

あっ 三田先生｡

お久しぶりです｡

>> おぉ 近藤か｡

(麻美) はい｡

おぉ… 久しぶりだな｡

元気か？

(麻美) はい お久しぶりです｡

お元気そうですね 先生も｡ >> おう 元気 元気｡

(麻美) ⟨現在 ９時５分⟩

⟨次の電車は９時17分⟩

⟨少なくともこの電車には乗せないようにしなければ いけない⟩

⟨念のため その次の34分も 乗せないようにするとした場合立ち話で30分は引っ張れない⟩

ちょっと お茶しませんか？

>> お茶？(麻美) はい｡ >> 今から？(麻美) はい｡

立ち話も何なんで あの… そこのガストで｡

お茶か… いやいや 行きたいのは やまやまなんだけど｡

実は先生さ おととし 結婚して今 奥さんのお腹に 赤ちゃんがいるんだよ｡

(麻美) おめでとうございます｡ >> ありがとうございます｡

それで 今日は やんなきゃ いけないこととかあるからお茶はな できないなぁ｡

(麻美) ⟨私だって お茶なんか 全然したくないけどあんたのために 仕方なく誘ってんだよ⟩

>> また時間ある時｡

(麻美) はい｡

学校に遊びにおいで｡

(麻美) はい 分かりました｡

>> じゃあ またな｡

(麻美) はい｡

ん？

(麻美) ⟨まずい… まずい まずい まずい まずい⟩

⟨ど～うしよう⟩

♪～

(麻美) ハァ ハァ…｡

私も同じ電車なんです｡

>> あ そうなの？

(麻美) はい｡

何だ 言えよ｡

(麻美) すいません｡

(麻美) 先生 隣の車両のほうがすいてるんであっち行きませんか？ >> え？

いいけど あっちのほう 混んでないか？

(麻美) いやいや｡

ここよりは すいてるんで あっち行きましょう｡

行きましょう あっち 行きましょう｡

すいません｡

>> こっちのほうが混んでないか？

(麻美) そうですか？

すいません｡

別にいいけど 激混みだぞ これ｡

(ドアチャイム)

(三田) 近藤たちがいた頃と違って今は すぐに親が出てきて 問題になっちゃうから大変だよ｡

(麻美) そうですよね｡

生徒たちもそれが分かってるから 先生のことナメちゃってさ｡

(麻美) へぇ～｡ >> いや ホント｡

昔の中学生のほうが よっぽど素直でかわいげがあったよな｡

(麻美) そうですね｡

⟨あ～ つまんない⟩

⟨元々嫌いな人の苦労話 全く興味ない⟩

なかなか出発しないな 何かトラブルかな？

(麻美) 何でしょうね？

⟨今まさに 隣の車両で 例の事件が起こっている様子⟩

(三田) 何だろう 痴漢かな？

(麻美) っぽいですね｡

何をやってんだよ まったく にゃろめ！

(麻美) ⟨さすがに 触った人のことは 助けられない⟩

♪～ “やさしくなりたい”

じゃ 近藤 またな｡

(麻美) 先生もお元気で｡

(ドアチャイム)

♪～

(麻美) ⟨こうして私は３周目も無事 ミタコングの救出に成功した⟩

⟨ついでに もうひと仕事⟩

>> これ いいねぇ｡ >> ホント？ よかった｡

それ お風呂でやるやつだけどね｡

(ドアが開く音)

(麻美) ただいま！

(遥:久美子) ん？

(寛) 麻美！

(久美子) どうしたの？

(麻美) お誕生日おめでとう｡

あ… ありがとう｡

あれ？ あれ？

(麻美) じゃ 東京戻るね｡

(遥:久美子) えっ!? >> え？

(麻美) あっ 遥 駅まで乗せてって｡

えっ 今？

(麻美) もう みんなで来なくていいよ～｡

いいじゃん せっかく来たんだから 送らせてよ ねぇ お父さん｡

いやぁ 最高の誕生日だよ｡

(麻美) それ 今やんなくていいよ｡

>> 私のはお風呂で使うやつだからね｡ >> もちろん お風呂でもやるよ｡

(麻美) 私のは お風呂で使っちゃ ダメなやつだからね？

>> 分かってるよ｡ >> ていうか お姉ちゃんがこんな親孝行だと思わなかった｡

(麻美) 元々 親孝行だよ｡

⟨さすがに ついでだったとは言えない⟩

(寛) あ～ 気持ちいい｡